

医学祭・・・三年に一度の星陵キャンパスのお祭り

東北大学医学部 医学部長

八重樫 伸生



毎年秋になりますと多くの大学で大学祭や学園祭が開催されます。東北大学の場合は東北大学祭という名前で毎年「文化の日」の頃に数日間開催されており今年が74回目となります。

東北大学医学部では戦前から医学部独自で学園祭に相当するものを開催してきました。【医学祭】という名前で戦前から行われていたようですが、戦時中は中断を余儀なくされました。昭和22年に復活してから現在までほぼ三年おきに開催されており、運営はすべて医学生の手で行われます。医学生といえども大学生のノリで企画運営しますので、一見すると他の大学祭や学園祭と変わらないように思われます。しかし、そこは医学部の現役学生が考えてやることですので、最新の医学研究を取り上げた展示をしたり、医学部内の実習室や講義室を一般開放したり、医学や医療関連の話題を取り上げた講演会を企画したり、以前は市民向けの健康相談をしたりと、実行委員会の学生たちがアイデアを絞って企画します。市民からも大変注目を集めており、毎回、数千人の市民が参加しています。実は今年が三年に一度の開催年に当たっており、戦後復活した昭和22年のものから数えて今年が25回目の医学祭となります。

私が医学部に入学した昭和53年に第11回医学祭が開催されました。「現代医学との対話・・・生きた医療をめざして」というテーマを掲げ、医学部内に21の展示会場を設け、三日間で約九千人の市民が入場しました。私は入学したばかりでしたし、その翌週に宮城県沖地震が起こったこともあり、私の学生時代の思い出としても強く記憶に残ったイベントでした。ちなみにそのとき先輩医学生に三年に一度という間隔について尋ねたところ、毎年開催では医学

生の学業の負担を考えると大変であること、一方で医学部医学科の学生生活が六年間あることから学生生活の中で医学祭を二回経験することができ開催のノウハウなどを継承しやすいから、ということ聞いた記憶があります。

第25回医学祭は今年10月9日-10日の両日に星陵キャンパスで開催されます。機会がありましたらぜひ医学生が学ぶ星陵キャンパスにご来場ください。

子どもから大人まで幅広い年代の方をお待ちしています。

第25回 東北大学医学祭

2022 10/9 sun → 10/10 祝・mon
(10:00-17:00) (10:00-16:00)

会場: 東北大学星陵キャンパス
(東北大学南側となり) 地下鉄南北線 北沢駅下車徒歩15分

協賛: 東北大学医学部 実行委員会

東北大学医学部 Tohoku University School of Medicine
東北大学歯学部 Tohoku University Graduate School of Dentistry

東北大学医学部学生後援会(PTA)の活動になお一層のご理解ご支援を

医学部学生後援会会長

黒澤 一



季夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。

東北大学医学部学生後援会(PTA)は医学部医学科および保健学科の学生の保護者の会です(ホームページ: <http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/index.html>)。私も学生の一保護者ですが、一方では、東北大学の教員で医学部教授会にもオブザーバーとして参加している関係上、保護者の皆様と教授会の橋渡し役ができればと思い、今年度から会長をお引き受けしました。どうぞよろしくお願いたします。

コロナ禍以来、日々、自分の学生時代とは全く異なる学生生活を目の当たりにしてきました。自宅にこもってリモート授業を受け、せっかく入ったクラブ活動もままならず、同級生とも気ままに遊んだりできない、かといって試験は容赦なく通常どおり実施されるという状況で、様変わりしたキャンパスライフと必死で向き合う学生の姿を家庭や教壇から見てきました。学生のストレスも相当だったろうと思いますが、一方では、情報機器を器用に操りながら、賑やかに勉強会をしたりイベントを企画したり、それなりに楽しそうにしている安心する場面もありました。大学からは何かと学生を気遣い配慮する措置が講じられ、保護者の立場としてはありがたい限りでもありました。

東北大学医学部学生後援会(PTA)は、2008年の設立以来14年目を迎えています。大学でもPTAがあるのかと驚くかもしれませんが、私を含めて保護者の皆様が学生だった時代と比較し、社会は大きく変化しています。学生自身やそのご家族および地域

住民の気質も異なるように思います。平成16年の国立大学独立法人化など、大学をとりまく状況には変革があり、自助の要素が加味された厳しい運営を迫られるようになりました。そのような中、学生の教育・研究を応援することを目的として後援会が設立され、活動が続けられています。2022年度の後援会加入率は医学科で73.9%、保健学科で57.0%でした。今後も引き続いて加入を呼びかけさせていただきたいと思っております。会員の皆様からの会費は、保健学科のウェアセレモニー、大学院リトリート発表会、基礎医学修練発表会、医学科白衣式などへの助成および東北大学附属図書館医学分館への学生図書寄贈、星陵キャンパスの環境整備への協力、などのほか、3年に1度の学生イベントである医学祭(10月9日~10日)の支援の一部にもあてられる予定です。双方向の関係も大切ですので、保護者側の立場から大学側に伝えるべきことは伝えていこうと思っています。会員の皆様の後援会活動に対するなお一層のご理解ご支援をお願いする次第です。



新型コロナウイルス感染症の勢いが止まりません。通常であれば、保護者と教員の間で楽しい交流の場を持つことも後援会の活動の一つとしていたところでした。保護者の立場としても教員の立場としても残念に思っております。1日も早い収束の後、従来のように一同に会して開催できることを祈念しつつ、ご挨拶とさせていただきます。

コロナ禍の学生生活



医学部医学科長

石井 直人

仙台育英学園高校が夏の甲子園大会で優勝し、私の母校である旧制秋田中学（秋田高校）が第1回大会決勝で京都二中に延長13回サヨナラ負けして以来、13回目の決勝戦で107年にして初めて大優勝旗が白河の関を越えました。このことは宮城県民のみならず東北の人々に大きな感動と勇気を与えてくれました。その第1回大会は大正4年（1915年）8月に行われましたが、同年7月14日に東北帝国大学医科大学が誕生しており、甲子園大会と東北大学医学部は107年という年月を一緒に刻んできたこととなります。高校球児の躍動がコロナ禍で疲弊した人々の心に励みを与えたように、本学も明るい話題を社会に提供できるよう、医療、研究、教育に邁進する所存です。

さて、コロナ禍において甲子園大会が無事に開催されたのは嬉しいことですが、3年ぶりに開催される予定だった東日本医科体育大会（以下、東医体）のほとんどの競技は中止となりました。東医体は24競技に1万5千人の医学生が参加し、昭和32年（1957年）から開催されている医学生にとって最大の競技大会です。一時期は帰省の自粛を求められるなど多くの制約を受けてきた学生は、久しぶりの大会参加や開催地である北海道への遠征を楽しみにしておりました。本学医学生の東医体にかける意気込みは他大学でも有名であり、学生は東医体参加そして優勝を目指して日々の部活動に励んでいます。

その東医体が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催直前に中止となったことは残念でなりません。しかし、実際、本学医学科においても7、8月の2ヶ月間で70人以上の学生が感染し、7月下旬に5年生を学年閉鎖とした状況を考えると、中止の決断はやむを得ないことだったと思います。これで3年連続中止となり、練習の成果を発揮する場や他大学の医学生との交流の場が失われた学生生活となってしまっていることは何ともやるせなく、来年の東医体開催を切に願っています。

甲子園での須江監督の「青春ってすごく密」という言葉が話題になっていますが、コロナ禍のために医学生の青春が疎になってしまうのは本当に残念なことです。医学科は他学部と異なり、卒業生の99%が医師/医学研究者として同業種で活動することが特徴です。すなわち、学生時代の部活動での縦の繋がりがや東医体などでの他校の医学生との横の繋がりが、卒業後の職業活動でとても有益なものになります。また、あらゆる人々と接する医師という職業に就く上でも部活動やアルバイト等を通じて幅広い人間関係を構築することは彼らの未来に大きな影響がある間違いありません。学修の場が医療現場であるために他学部の学生よりもコロナによる制約が多くなるを得ないのは心苦しい限りですが、彼らが活動する場をできる限り提供し本学で「とっても密な青春」を過ごして欲しいと思います。

学生受賞情報

【ボート部】

医療系レガッタ

- ・総合3位
- ・男子舵手付きフォア3位
(衣笠智昭・田村尚己・渡邊陸・永川貴大・土田良太)
- ・女子シングル2位(田悟優衣)
- ・新人男子舵手付きフォア優勝
(福田湧希・田中将真・丸山倫・岩田航正・後藤通哉)

第65回東日本医科学生総合体育大会ボート競技

- ・総合優勝
- ・男子舵手付きフォア優勝
(衣笠智昭・田村尚己・渡邊陸・青野光・土田良太)
- ・女子シングル優勝(田悟優衣)
- ・新人男子舵手付きフォア優勝
(福田湧希・田中将真・丸山倫・岩田航正・後藤通哉)

【ヨット部】

第50回関東医科歯科学生ヨットレース

- ・団体 優勝東北大学
- ・個人3位 松澤健介(4年) / 小久保璃奈(2年) ペア

第65回東日本医科学生総合体育大会ヨット競技

- 団体 優勝東北大学
- 個人2位 久保田禮(5年) / 森田直輝(4年) ペア
- 3位 中山陽仁(5年) / 丸田孝友(4年) ペア

※東日本医科学生総合体育大会
東医体〈とういたい〉は、東日本のほとんどの医学部が参加する医学生のスポーツの祭典

保健学科の新スタイルあれこれ ～COVID-19パンデミックの中での経験を生かして～



医学部保健学科長

大森 純子

保護者の皆様、日頃より保健学科の教育研究活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。いつも変わらぬご支援に感謝申し上げます。

2022年度の保健学科は4月に新入生149人を迎えスタートしました。看護学専攻70人、放射線技術科学専攻39人、検査技術科学専攻40人の新入生は川内キャンパスと星陵キャンパスで対面による講義や部活・サークル活動を通じて、学部内外の学生との交流し東北大生活を満喫しています。2年生は星陵キャンパスに登校する頻度も増え、専門科目の勉強により力を入れる時期に入りました。3年生は毎日のように星陵キャンパスに通い、後期からは約1年間続く臨床・臨地実習に入ります。4年生は卒業研究が中心となり、12月のチーム医療実習が終われば、2月の国家試験の勉強に集中することになります。

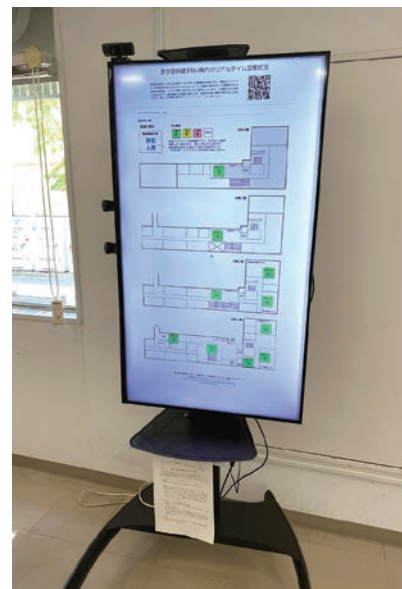
長引くCOVID-19パンデミックの中で保健学科教職員は学生の声を聴きながら、3専攻で使用する講義室の調整、学生ラウンジの整備、WiFiアクセスポイントの増設等を施し、保健医療の学習を支える環境を検討してきました。私たち教職員が対面にこだわる理由は3つあります。1つ目は専門知識と技術の習熟と統合には、学生と教員との直接的対話や学生間の意見交換や討論が必須であること。2つ目は人間性豊かな医療人を育成するためには同級生や先輩・後輩との日常的な交流経験が欠かせないこと。3つ目は対面とオンラインをバランス良く組み合わせることで一層高い学習効果が得られることがわかってきたからです。

今回は、2021～2022年度の保健学科の新しいスタイル、講義棟で実証実験中の密状況（人流・二酸化炭素濃度）観測システム、学習支援DXプロジェクト、対面による高校生との交流についてご紹介します。

① 保健学科講義棟では、データ駆動科学・AI教育研究センターと共同で3密と換気の悪い密閉空間の自動検知/見える化システムを導入し、常時講義棟内の人流と二酸化炭素濃度を測定し学生にリアルタイム混雑業況を知らせる実証研究を行っています。感染リスクを自動的かつ速やかに検知する

ことで、学生は自らリスクを避けて生活することができます。実証研究が進めば、このシステムは様々な施設で活用されることが期待できます。

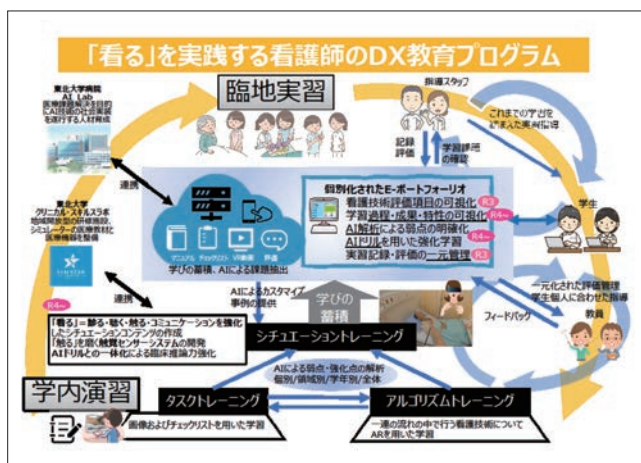
（放射線技術科学専攻 本間経康 教授）



② 看護学専攻では、文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の支援を受け、新型コロナウイルス感染拡大下の臨地実習においても、学生が主体的に学びを継続できるシステム構築と学生の「見る」機会を補うデジタル教材の導入を目指し、以下のデジタルトランスフォーメーション（DX）プロジェクトを進めています。パーソナルE-ポートフォリオでは、看

護技術到達度を学生自身がパソコンや iPad などを用いて記録しオンライン上で可視化することで、学生と教員が双方向に連携できるシステムづくりに取り組んでいます。学生個人々の到達度に応じた学習を支援します。診る・聴く・触れるを意識づける看護シチュエーショントレーニングでは、VR 技術を活用した教材システム開発に取り組まします。COVID-19 感染拡大時に臨床・臨地実習を行えない状況でオンラインによる実習を考案してきた経験から、360 度動画の仮想空間で診る・聴く・触れるのリアリティをもって看護プロセスを展開できるように検討しています。

(看護学専攻 菅野恵美 教授)



③ 2022 年 7 月 27 ～ 28 日に東北大学オープンキャンパス 2022 が 3 年ぶりに対面で開催され、保健学科 3 専攻では川内キャンパスを会場に学生が中心となって参画しました。従来は医学部と大学病院がある星陵キャンパスが会場でしたが、COVID-19 感染症対策のため、川内キャンパスに

出向いて行いました。感染予防対策を講じながら、慣れない川内会場で対面実施する方策を検討しなければなりませんでしたが、オープンキャンパス実行役員学生の熟慮と頑張りにより、学生相談、模擬講義、研究室紹介、実習紹介、高齢者・妊産婦体験など、専攻毎の特長を踏まえた企画を行うことができました。当日は多くの学生ボランティアの協力と工夫もあり、参加した高校生は充実した時間を過ごすことができましたと思います。2023 年 3 月末までオンラインオープンキャンパスも開催しています (<https://www.med.tohoku.ac.jp/admission/seminar/oc/>)。ぜひご視聴ください。(詳細は、7 ページ参照)

(看護学専攻 佐々木康之 助教)

今年は 3 年ぶりに東北の夏まつりが各地で開催されました。毎年 8 月 1 日の盛岡さんさ祭から始まり、青森ねぶた祭、秋田竿灯まつり、山形花笠まつり、福島わらじ祭と続き、ラストは 6 ～ 8 日の仙台七夕まつりです。七夕前夜祭ではアマビエの花火も打ち上げられ、疫病退散を祈りました。伊達政宗公の時代から受け継がれる仙台七夕の 7 つの飾りをご存じでしょうか。短冊には学問や書の上達、屑籠には清潔と儉約、紙衣には病気や災難の厄除け、折鶴には健康長寿、投網には豊作や豊漁、巾着には節約と商売繁盛、吹き流しには機織りや芸芸上達という願いが込められているそうです。人々の健やかな暮らしと命を守るための高度な知識と技術を修得しようと全国から若人が集う東北大学医学部保健学科の教育研究への思いと通じる部分が多いことに気づき、保健医療の社会的使命を再認識しました。今後も学生たちが健やかに堅実に学びを重ねていかれるよう教職員一同努力してまいります。今後ともご支援よろしくお願いたします。

医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーを開催しました

2022 年 7 月 4 日、医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーを開催しました。

八重樫伸生研究科長、大森保健学科長、鈴木看護部長、黒澤医学部学生後援会会長から、実習に向かう学生に対しての激励の言葉がありました。

学生代表の丹治明日香さんに記念バッジが授与され、丹治さんが実習に向かうにあたっての決意表

明を行いました。これからの皆さんの頑張りを応援しております。



学位記伝達式を執り行いました

令和4年3月25日晴天の中、東北大学学位記授与式が川内萩ホール及び川内北キャンパス講義棟B棟（サテライト会場）で開催され、午後に医学部内で学位記伝達式をそれぞれの学科・研究科ごとに執り行いました。

学位記授与式と学位記伝達式内において、学内表彰が授与されました。

総長賞・医学部長賞は、本学・本学部の教育目標にかない、かつ、学業成績などが特に優秀な学生を表彰するものです。

<医学部医学科>

総長賞

・新井朋代

医学部長賞

・後藤裕太郎 ・中島優香

医学部学生顕彰（教育貢献部門）学生代表

・渋井愛子 ・松田瑞基 ・中澤新

<医学部保健学科>

総長賞

・看護学専攻 鳥山恵未

・放射線技術科学専攻 木村森音

医学部長賞

・看護学専攻 尾形菫

・検査技術科学専攻 佐藤美羽



八重樫医学系研究科長・医学部長
挨拶の様子



感染対策のため、医学科2会場に分けて
式典を執り行いました（医学科）



保健学科 式典の様子

保健学科卒業生から花束をいただきました

令和4年3月22日に保健学科謝恩会幹事代表から感謝訪問として八重樫医学部長と学生後援会上月会長に感謝のお言葉と花束をいただきました。

八重樫医学部長からも今後に向けて激励の言葉を贈りました。

卒業で忙しい中、ご来訪いただき誠にありがとうございました。

新天地でも健康に留意し、ここで学んできたことを活かし、これからも頑張ってください。今後の活躍に期待しております。



オープンキャンパス 2022 報告書

令和4年7月27日(水)、28日(木)の2日間、3年振りとなる東北大学医学部対面オープンキャンパスが川内キャンパスにおいて開催されました。真夏日となる中、学生実行委員、学生ボランティア、教職員が一体となって900人程の来場者をお迎えすることができました。



医学科からの報告です。3年振りの対面開催となる今年は、新型コロナウイルス感染対策のため星陵キャンパスへの来場を見合わせ、初めての川内キャンパスでの実施となりました。実施形態もこれまでの自由参加ではなく事前予約(抽選制)となる事から、パッケージ型のプログラムにて参加してもらうため、「医学科紹介」と題したプログラムを準備しました。

実施内容は参加者を3グループに分け、ツアー形式にて行いました。「学生と語ろう」では、高校生からの様々な質問に答えました。また、大学の講義を体験する「模擬講義」では、押谷教授からCovid-19に関する講義を行っていただき、さらに医学科学生からの感想を交える事で高校生にとって身近で聞きやすい講義になったかと思えます。最後に「医学科を知ろう」では、医学生の実生活や普段過ごしているキャンパスの様子そして受験勉強の話、さらに医療現場のビデオ上映では、VRゴーグルを使用した臨床現場の体験が出来、参加者からも大変好評でした。



保健学科からの報告です。医学科同様、川内キャンパスにて専攻毎のプログラムで実施しました。

看護学専攻では、「若手教員による看護の話題提供」、「妊婦体験」、「高齢者体験」、「学生相談」をパッケージ化したプログラムを準備し、ツアー形式で行いました。

放射線技術科学専攻では、「模擬講義+分野紹介」、「学生相談」、「体験コーナー」をパッケージ化したプログラムを準備し、ツアー形式で行いました。

検査技術科学専攻では、「模擬講義」、「専攻紹介」、「学生相談」をパッケージ化したプログラムを準備し、ツアー

医学部オープンキャンパス推進委員会 委員長 酒井 寿郎

形式で行いました。

「模擬講義」や「若手教員による看護の話題提供」では、教員から各専門領域に特化したトピックについての講義・講演があり、参加者は熱心に聞いていました。

「体験コーナー」では、実際の実験器具や新生児モデル等を用い、各専攻の特色を生かした体験プログラムを実施しました。参加者は、妊婦や高齢者の体験、放射線の測定等に緊張しながらも集中して取り組んでいました。

「専攻紹介」では、パネル展示や実際教科書、実験ノート、論文などを用い、保健学科学生が大学で学ぶ内容についての説明を行いました。参加者は、教科書等を実際に手に取りながら、熱心に説明を聞いていました。

「学生相談」では、受験勉強の方法や大学生活の様子等、参加者からの様々な質問について、保健学科学生が丁寧に答えていました。実際の学生の生の声が聞ける貴重な機会となり、たくさんの質問があり、大いに盛り上がりました。

今回は事前申込制となったため3年前の対面開催よりも参加者が少なかったものの、コロナ禍で開催した対面オープンキャンパスはトラブルもなく、盛況にて終了しました。星陵キャンパスでの実施は叶いませんでしたが、パッケージ化したプログラムはバラエティーに富み、参加者にとって満足感のあるオープンキャンパスになったものと思います。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご支援に心から感謝申し上げます。



医学祭開催のご案内

医学祭実行委員長 井手田 凌



医学部後援会会報をご覧の皆様、お世話になっております。第25回東北大学医学祭実行委員会にて、委員長を務めております、医学部5年次学生の井手田凌と申します。3月発行の会報でも医学祭に関する記事を掲載していただき、そこで寄附のお願いもさせていただきます。おかげさまで、充実した企画を実施

するにあたり、十分な資金が集まりました。この場をお借りして、お力添えに感謝申し上げます。

さて、医学祭当日も間近に迫ってまいりましたが、今回の医学祭の現地企画に関しては事前予約制とし、入場者数を制限する方向としました。全体テーマである「Connect～私と医療と世界と～」にもあるように、より多くの人と医療を繋ぐべく、可能な限りオープンな場にしたいと思っておりましたが、感染状況などを考えてこのような決断といたしました。

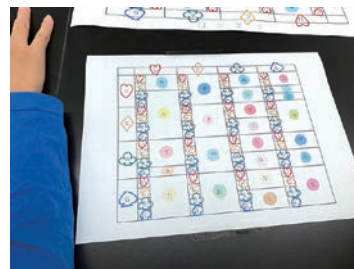
心苦しい決断となりましたが、今回は現地での企画に加え、オンライン企画の準備も進めていたのが前回までの相違点です。当日は現地とオンラインのハイブリッドで企画を楽しんでいただく、新しい形の医学祭となれば、と思います。

例えば、現地企画として、様々なテーマを楽しんでいただける実験体験企画、歯と全身の繋がりについて知っていただく企画など、感染対策を講じた上で多種多様な企画を準備中です。また、オンライン企画として、豪華講師陣をお招きする講演会企画の準備を進めておりま

す。こちらは、配信により講義室のキャパシティをはるかに超える人数の方々に聴講いただける予定です。また、高校生を中心に人気のある学生と語ろうという企画も、オンラインで雑談を楽しんでいただけます。詳細はホームページをご覧くださいと思います。

前回のよう到大勢の方をお迎えすることはかないませんが、その分、前回よりも良い企画を作り上げ、前回のような活気ある医学祭にしていきたいと思っております。直前期になり、最終調整のために準備すべきことが山積しております。しかしその分、当日が近付いている実感、開催にこぎつけられるという高揚感もあります。実行委員のメンバーには既に多くのお願いをしてきており、開催が近付き更に多くの準備をお願いしている状況です。例年ない準備を要する企画も多く、負担をかけている申し訳なさもあります。充実した医学祭のため、もう少しだけ力を借りたいと思う所存でございます。

本会報をご覧の皆様におかれましても、もう少しだけ我々の活動を見守っていただければ幸いです。そして、実行委員会全員で作り上げる新しい医学祭を、ご覧の皆様にも楽しんでいただければ、これに勝る喜びはありません。



編集後記

医学部学生後援会(PTA)は、会員の皆様方、学生及び教職員の方々に支えられ本年度を迎える事ができました。心から感謝申し上げます。後援会といたしましては今後も助成及び学生の教育活動への支援などを継続して行い、医学部全体の充実をより一層図っていきたく思っております。

学生後援会事務局 (PTA)

- 東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト：
<http://www.med.tohoku.ac.jp/>
- 東北大学医学部学生後援会ウェブサイト：
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>
- Twitter : https://twitter.com/tohoku_univ_med
- Facebook :
<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine>



東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>